

## 日本歯周病学会 第72回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第72回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会第4次生涯研修）
2. 主催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協力：三重県歯科衛生士会
4. 日時：平成29年7月9日（日）13:00～16:30（受付12:30～）
5. 場所：三重県歯科医師会館
6. 演題：① 歯周基本治療を成功に導く歯周組織検査  
② 噛む力 ～見えない「力」を歯科衛生士はどう捉えるのか～
7. 講師：伊藤 弘（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）  
茂木 美保（日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会 委員）
8. 研修単位：①②の両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能
  - ①日本歯周病学会会員の場合
    - ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（参加者8単位）
    - ・更新時の生涯研修単位（10単位）
  - ②日本歯科衛生士会会員、会員外の場合
    - ・第4次生涯研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）

### II 検査と評価

A 歯周組織検査（視診、プロービング等） 2単位

### IV 口腔衛生指導と生活習慣指導

E 咬合や力に関する知識とアプローチ（悪習癖の改善等） 1単位

### 9. 内容：

受講人数は156名（歯科衛生士139名＋三重県内の学生会員17名）であり、そのうち日本歯周病学会会員の出席は22名であった。なお、三重県の日本歯周病学会認定歯科衛生士数は、平成28年11月14日現在2名（うち1名は他県からの異動とのこと）である。

はじめに、三重県歯科衛生士会近田会長の挨拶があり、三重県歯科衛生士会の活動紹介の動画が流れた。次に茂木講師より、本講演会が日本歯周病学会と日本歯科衛生士会の連携のもと、開催されていること、生涯研修の必要性、日本歯周病学会認定歯科衛生士制度等の説明があり、歯科衛生士の資格があれば誰でも相対的歯科医療行為が行えるというのではなく、熟練度があると判断された場合に限るため、キャリアアップを図る必要性があり、卒後研修の重要性について伝えた。

講演前半は、茂木講師により、歯科衛生士による「力」へのアプローチについて講演を行った。最初に「力」を理解するための前準備として、キーワードの説明を行い、ブラキシズムの歯・歯周

組織・顎関節・筋肉等への影響、噛みしめ呑気症候群、「力」を診るポイント、「力」への歯科衛生士の関わり、態癖、TCH、是正指導等について解説を行った。

おしまいに「力」の診査は、力の関与を推測するために行うものであり、口腔内に生じた現象の原因が「力」によるものであるという確実性に高い診査法がないのが現状であり、歯周治療においては、炎症のコントロールが優先されることを強調し、歯科衛生士による力へのアプローチのポイントは、「気づく」こと（察知力）、気づきへのサポートと生活習慣へのアドバイス（実践力）、変化を見逃さないこと（再評価力）であるとまとめた。

後半は、伊藤前委員より、プロービングについての講演と実習があった。「歯周基本治療を成功に導く歯周組織検査」と題して、前半は特にプロービングに特化した検査の重要性とその意義について文献的に解説し、検査結果の値から治療結果の予測と治療計画の立案・予後について言及した。後半は、プロービング圧に特化し、各自持参のプローブを用いた実習を行った。さらに、実際の症例を通して検査結果により得られた情報の実践応用について講演を行った。

なお、アンケート回答者は131名であり、日本歯周病学会認定歯科衛生士は17名、今後習得する予定がある方は22名だった。

演者

三重県歯科衛生士会 近田会長



伊藤弘委員

茂木美保委員



会場の様子



三重県歯科衛生士会執行部の皆さまと演者

